



中務大補之

謄牒餘錄卷之二

淺草文庫

御實紀調所



大坂御陣之書狀之寫

方日余公書狀之寫

冬御陣之書狀之拾

又通

中多上野女房自筆

書狀之字之通

秀頼御合板倉信頼之書

秀頼御合板倉信頼之書

夏御陣之書狀之通

随分先書もめり公
心腹の御意印し
大坂の御心別へ
お徳の御心正し
質の御心天正寺
道心御心正し
やその御心正し
その御心正し
その御心正し

我未若心も大坂
至し毛有れ正し
やし可深知下り
至る下り公大坂
後部も心正し
い、下り道る下り
之御心

板伊賀与

九月廿八日

五列

本漫列帳

自是下
存以
自是下
其八日已列

大坂
通
紙
肉

中入公常事其快也
其曉伏見、口口口
之度、仕合其言、
市正、
德合津田左門大將
德理雜在仕候、
市正、
是、
然、

修理左門と馬を
車、
市正、
お、
下、
主、
人、
立、

因心六人大坂下之
退中一也一也一也
定白陣七下之也
月之天也用之也
程也程也程也
自是下之也

板伊候

乙刻
九月廿八日
吉刻

本濃別候

行常去七云在八月

候子進之也

進心候也

叶朝日也

叶朝日也

長引 八尺糸分反

物類 一尺一糸細糸分

持糸紐見 一尺大塊

一尺

美此 一尺 布正

毒子 百連 一尺 退正

大燈 佛理 と 始 自 心

西 登 と 解 一 尺 二 尺 大

入 波 用 心 一 尺 一 尺 布 正

見 中 家 中 毒 子 教 養

先 一 尺 一 尺 退 正

一 尺 一 尺 道 具 持 正

一 尺 一 尺 一 尺 一 尺

又 延 一 尺 一 尺 一 尺

河 門 口 道 一 尺 一 尺

一 尺 一 尺 一 尺 一 尺

退 一 尺 一 尺 一 尺

城 一 尺 一 尺 一 尺

自心金友人数ね
集りて社会雜誌
紙の上条馬細口上
り命に渡河の心も
以て使合りて元故
其方ては海にさし
海

秀頼の

九月廿八日

墨平

板倉伊賀

此れをねんは
今度人改報流
成身白紙を象
其入心以紙
通悉てりて

候之者、心道、山
頂、下、は、か、こ、也
今、心、道、心、道、心、道、

大御所松平直正公より

御下付、御下付、御下付、

心道判、心道判、心道判、

御下付、御下付、御下付、

心道判、心道判、心道判、

御下付、御下付、御下付、

十月三日

御下付、御下付、御下付、

心道判

大坂、松平、直正、公、御下付、

御下付、御下付、御下付、

心道判、心道判、心道判、

御下付、御下付、御下付、

定新不流田也
絨之流名一介
伏見と上
成し中守る
那と毛
あり伏見
大御
今月
西

糸山
都

女

青月

女

女

大坂志剛
大御所松本月奇
後府出是以上
各以月意
子
中
分
一柳

為
札
布
福
下
五
如
以
依

宿前名瀬田迄と
御意之元 年々
伏見迄下名上名
俾出之号毛以之
御下之流

十月九日

中多上中多

書判

中多上中多

中多

急度下入公只今
御多伊是下中
来以紙前以人数
中多 及之 上之也
中多 紙之 比菊
中多 及之 中多
中多 及之 中多
中多 及之 中多

津島陣下御為
うづへ

板屋

十月九日

亥刻

津島列帳

今中

おしな中へ伝奉

津島列帳
おしな中へ伝奉
津島陣下御為
うづへ
津島列帳
おしな中へ伝奉
津島陣下御為
うづへ
津島列帳
おしな中へ伝奉
津島陣下御為
うづへ
津島列帳
おしな中へ伝奉
津島陣下御為
うづへ

我亦同從命
之後子
何人
子
併心
後
各以
之
之
之

伏見
後
併心
後
各以
之
之
之

方角友治がらと云
知るこゝろなきしや
むなしく大坂の城を
りしん人取しや
増表、下お勸也
りさるしと云るは
中平の武具の山
人教どいもと云
時し心元なるは

ありし心元なるは
く家中元と云
て心なるしや
心のりしや
碧城の元と云
と云るは
七月廿日
板伊賀
古刊
本濃州

市ノ先列也
りり入るる心
却し平方色
急度ノ入公
私ノ解也
集ノ平方色
病ノ目ノ出馬
早ノ陣次
只今ノ

中ノ力
行時ノ平
子ノ身
宜ノ也
由使ノ
尸身ノ
了然ノ
乃發ノ
板伊

十月廿日 去列

本濃州板

遊らり入の明
茶休の留に空
久ぬに是れと武
多そふかたに也

のりとおし
よとやもは
お及りてえぬ心
お世り入の行時
急心紙年方
却之程

板

十月廿日 去列

本濃州板

とくし 出日平方、
ふゆ人じり 紙し 出日平方、
うそふ也 とも 時存の あり

今晚 草津 近 出 去

水鏡 印 一 斗 一

し 也 永 像 一 一

い とも あり とも あり とも あり

時 々の 大津 近 出

神 本 丹 一 斗 一 一

总的 存 日 とも 平 方 近

く とも あり とも あり とも あり

紙 一 斗 一 先 刻 也

花 此 とも あり とも あり

草 津 近 何 とも 武 具

く とも あり とも あり とも あり

草 津 近 何 とも 武 具

大 津 近 何 とも 武 具

武 具 一 斗 一 何 とも 武 具

草 津 近 何 とも 武 具

人の初也て解しけり
月書ふとん明か
伏見、水泊平方と
ふ里初と見たり川
無此花はら伏見と
早天、いそとん
心あこひふこ
てら水とん
ふらるる

板垣
氏

十月十日

書判

本
濃州
板垣
氏

多し上中
あつ
く

唯今使是使也
以入一物之山系
見舞之山經諸
事一人用每以之
毛之成之今之
大休之泊的物見
之成由志之也
草之山系之成
牧首之末下之

之物續し

十月十日

板仔細了

去刻

本流別括

去括

抄之傳之入
抄之傳之入

中書省中書省

一州府之...

少人教...

守方...

川...

形...

多...

指...

多...

多...

少...

指...

多...

自...

自...

余所へては色は
後へ教へ申す
下如く申すは

十月十日

板付

三判

本流別紙
今中

りて漢中書
名をてけ
交々
中
酒々
大
人
乞

とらけりしもの名

あはれいほりてぬ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

あまのこすす中へ

弓作海

板作

十月六日

書列

中安懐

書

上

入心

心

色

大坂
中
後
佐

松

十月六日

書列

中安懐

中安懐

此を鳥と三鳥と云く

おもしろきことなり

三鳥及之波の福唱

左鳥 是鳥の内 福唱 或鳥

場田 角鳥 及之波 及人

大坂 川鳥 と 下 鳥

鳥 和 邊 下 鳥 以 通 鳥

鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

後

板伊 噴 鳥

十月十九日

鳥 鳥 鳥 鳥

本 濃 州 板

鳥 鳥

鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

鳥 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

又无作以出如像
冲然书洋是信
一知分中上列述一
时方平方表述是
上疾及元、以恶也
心出以成疾
可也、自是下下个下
入了知列以心以眼也
心与存之左云自右以
与右侧内、中、方、上
是物之字也中、会、皆

无用之也 述之也
作就与右取也、
可也 经年也
宰相权、的、以入
治之也
上快也、上志、以
方、言、与、其、
之、心、也、又、因、
之、片、市、正、为、也

茂木、子紙、根、重、白
下、入、子、能、色、能、能
清、之

板倉伊賀守

十月廿日

出判

本、多、濱、州、校、

校、

之

之、意、書、清、見、仕、

以、あ、ら、方、子、飛、名、白
何、表、判、子、仕、手、日
物、之、大、津、雨、板
今、白、依、和、山、之、志、白
之、意、之、白、也、日、之、下
之、意、之、志、之、花、也、也、白
之、白、左、右、之、今、年
之、意、之、志、之、花、板
之、意、之、志、之、上、去

之收簿

板任契書

十月廿一日

去判

本澤州板
以反

○一 其元由陳以紙

野州流ハ其板大身ハ其

為事一ハ給合者其有

○一 元北由見

大坂之紙ハ其紙

ハ其元由紙ハ其紙

○一 其元由紙ハ其紙

其元由紙ハ其紙

其元由紙ハ其紙

其元由紙ハ其紙

其元由紙ハ其紙

一 孝友之妻 玉陳
必由情之所入也 速
尸紙之方以公易之
早之車

一 宰相快只今 長成
湯無名之成子也
心之車

一 今朝也 以觸 姑弟之
為物成之 入也

一 方之 以法 成之 急成下
為身成之 有也
先 弟之 成之 入
心之 入也 成之 入也
法之 入也 成之 入也
子之 成之 成之 成之
形之 成之 成之 成之
心之 成之 成之 成之
心之 成之 成之 成之

為至心之信也
之極情也

板倉信實

十月廿一日

上列

印之受儀之概

中法

中法之流也

今陳陽如海無量功德
一書也

清意之中也

出陣之次也

今書月集別集圖

付西人月集也

長之極是也

身之極也

我亦不也別紙

以状系之
場以下
之
入
之
之
之
之
之
之

板倉屋敷

十月廿三日

去列

松下
井仔
印
各

子
印
印
印
印
印
印
印
印
印

氣血之修養

五臟之氣血之

子
以是意為

上使血氣為之月限

物本上則安帶口

夫力中事之必能光之

滋之湯治成古思

子能安汗水之度

身也中事之身也

心得之氣血之

物者少少噴氣仕

其上也

宰相使由去處

水運之氣血之

平到之平了之早迷

得氣之氣血之

下血之血之

如尸之大坂表自

指心之多少其用之也
追之始理之其之
之之之之之之
之之之之之之
之之之之之之

板倉伊賀守

十月三日

去刻

本濃州校
足

也
半札之相之仍
去亦九月飯森之
以印陣之其何也
上給送中存其之
去入之其象修之通
送之之之之之
下之早中其之相
無之之之之之

下家作し謀意好
る家し安曲に後
音し安し子以故
少能一丁之性謙之

年多上野分

十一月吉日

土割

年西弟儀書後

中後

從心路之河後之

上之安事儀

上之安事儀

去月八月一日書

甲斐守安事儀

為濟安事儀

安事儀

安事儀

將軍換去月吉日

安事儀

山出馬今二日之至

此書之代也

名漢至之長陣

一 其後之事

之在陣之取飯毒也

取山陣取之

之始也

表之也

松平筑前守

陣九下

涉意少物

之始也

大坂表

天皇守

燒仕

大坂

之始也

之始也

一
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

霜月二日

山井大次郎

去判

酒井雅樂氏

去判

牛久保港馬場

中夜

之

一
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

中
月
場
年
石
祈
也

乃

依

重

上

中

中

中
中
中
中
中

此札乃由見之其
之知友堂和泉与
紙系麻沙人教、水
水續友史、水陣取
由中忍然、平、平
下是、心、女、子、
之、候、若、上、位、
候

能取之水取之、物、
候

本、事、上、中、
候

土、月、八、日

去、判

本、事、上、中、
候

一、事、上、中、
候

去六月廿七日
此日依別
公方根
陣
五月廿七日
松平
築

去六月廿七日
此日依別
公方根
陣
五月廿七日
松平
築

去月八日

去井大

去判

安南對馬

去列

酒井雅賢

去列

平産又濃

去列

行上列

運上列

去列

内状

將軍

將軍

將軍

將軍

將軍

將軍

將軍

將軍

後上列也札至了之
先之伏見、公系、
下程、由、本、九、深、
公、程、之、之、
切、下、家、心、
之、
板、伊、
去、判

十月十日

中、
樓、
州、
後

以、使、札、之、
了、了、
中、
今、
上、
下、
後、
出、
弓、

多... 同見于
... 色... 出...
... 爲... 爲... 達
... 一... 極...
... 使... 上...
... 中... 中...
... 西... 中...
... 津...

酒井雅樂次

上月十日

去判

印多... 後

進... 組... 中...
... 通... 終...
... 及... 入... 境... 下...

法紙張、在中心
集人、有軍人、年
境典中、より、年
監下、終り、然、初、日
之、法、及、之、吹
今、之、陣、分、終、之、由
新、不、中、終、終、下、終、終
五、入、之、意、之、中、中、之、
能、下、之、終、之、之、終、之、

ら、終、終、之、下、及、言、之、
之、之、之、之、之、之、
終、之、

西、月、土、日

張、本、之、終、之、

瀧、川、之、終、之、

初、麻、之、終、之、

之、終、之、

去田隱岐守

横田甚重

城 和泉守

山代守内少

本多氏儀

陣本

去判

去判

去判

去判

此

是札之相見し由之

湯作之成友和泉守

山本清成守大史

今清成守國守也

春之台山山後由通

然之守守守守守

早守守守守守

守守守守守守

いそいそとえおき候
きき候に申す毎に
てしつて相違ひ申候
うきと申候候

申の上申

十月十日

去別

女海女濃

いそいそとえおき候
きき候に申す毎に
てしつて相違ひ申候

村田

いそいそとえおき候
きき候に申す毎に
てしつて相違ひ申候
うきと申候候

ふりてく清く

ふりてく

十月十日

去別

ふりてく

ふりてく

ふりてく大坂

ふりてく大坂

ふりてく大坂

ふりてく大坂

ふりてく大坂

ふりてく大坂

ふりてく大坂

ふりてく大坂

ふりてく大坂

ふりてく大坂

ふりてく大坂

何時も人出りしを
拙子居りしを
入日通及寺、
おんたしと寺、
若しと夫と寺、
乃下り町と寺、
今寺と下りし
は若しと一と寺、
と仰渡り

村田権造

十月九日

去列

今更後

今更

五更後
方今人等
方今人等

細砂川 其水之清
如白練 其水之清
如白練 其水之清
如白練 其水之清
如白練 其水之清
如白練 其水之清
如白練 其水之清
如白練 其水之清
如白練 其水之清
如白練 其水之清

之性乃乃端乃也
偏於入河乃又
定乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃

極月古冬
加友乃助
其利

江戸幕下支

行前御書

切之為行意

青出ら

湯中

行市正

三月廿七

刻

本局御書

伊能

有る体人へ御書
何れも御書
病水沙中刻

去舟以りし中
杉下法及御書

已去
押前御書

成集
中

ゆ

東地子均

おとら集りて終るるの

西ノ研 高之志

しとら入る道百とら

物とらまら細小とら

下あしとら

信成ては

成りては

りしとら

やましとら

くさる

あしあ

日本神々集り

地り

あしあ

あしあ

あしあ

あしあ

あしあ

あしあ

しめすべし天の御魂を奉るに
しめすべし天の御魂を奉るに
しめすべし天の御魂を奉るに

音响 板印
三行

本濃別
山鼓

くしきんをけりし市面
しりりりあし成り地
ぬきし状紙のしりり
一筆今昔のしりり
ふんえんは武蔵のしりり
胡のしりりしりり
しりりしりりしりり
しりりしりりしりり
しりりしりりしりり
しりりしりりしりり

越の井掃中夜半
ちひひ

正法及寺家別

何も同前中來ん

西のりりの時

夕物中力

長通

志押

又或分
常
法
杉

得之

音傳

板印

刻

中書法書院

石印新書局
中書法書院

後多或之押書
中書法書院
石印新書局
中書法書院
石印新書局
中書法書院
石印新書局
中書法書院
石印新書局
中書法書院

丹梯中夜中溪
舟行過中中其
中夜中夜中其
陣札中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其

中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其
中夜中夜中其

買

板

之

中

之

之

之

之

之

之

之

一

之

後

之

之

之

洋見...
由敬...
一

一
表...
一

一
按...
一

一
成...
一

去...
一

一
以...
一

一
是...
一

一
大...
一

一
上...
一

一
手...
一

一 乙子と伝中

一 甲斐と度一車以

一 湯志しとてとてと

一 乙子とてとてと

一 伝中しとてと

一 乙子とてと

乙井大物助

卯月六日

去判

卯月六日

湯及

乙子とてと

乙子とてと

乙子とてと

乙子とてと

乙子とてと

乙子とてと

乙子とてと

之候 中伏州 同奉書

下集にて去り候事

所 下可下之 九七地

中伏州 極子 然下しる

山内書とて 友中

下是と云あり候

披見所候 其取出候

由同候 とも不若也

湯意、一應に由候

中 將軍校右

右金水志候とて

其取出候とて

甲斐守復名古也

其と云ふと申年等

所候 由内候とて

後候 付上り候

右土地と云候

此花... 乃新公... 暫... 後... 之... 同... 是... 予... 今... 公... 急... 予... 之... 公... 之... 將... 續...

清... 公... 判

卯... 月... 日

共... 判

本... 安... 濟... 公... 判

乃... 公... 判... 入

乃... 公... 判... 入

乃... 公... 判... 入

乃... 公... 判... 入

乃... 公... 判... 入

乃... 公... 判... 入

乃... 公... 判... 入

乃... 公... 判... 入

乃... 公... 判... 入

世傳 予之志以先日
以世之仁石橋八重
水鏡之先書めり予
以入之志之版 然以
予之志之版 下之志
予之志之版 以中面す
予之志之版 持之志
予之志之版 以中面す
予之志之版 持之志
予之志之版 以中面す

世傳 予之志以先日
以世之仁石橋八重
水鏡之先書めり予
以入之志之版 然以
予之志之版 下之志
予之志之版 以中面す
予之志之版 持之志
予之志之版 以中面す

古井大炊助

六月廿三日 去判

本頁懐子叙
中後

高麗 西渡
一石 定

其札之紙 紙見 仕

由本面之通 事 得

之 意 以 後 列 古 今

大 坂 本 志 以 凡 以 名

也 依 其 後 之 古 蹟

每 之 花 以 識 其 入 意

亦 其 上 之 悅 豫 之

大 坂 助

六月一日

去 到

本 港 別 紙
書 後

子
五月十八日

本 多 中 務 補

Handwritten text in cursive Japanese calligraphy (sōsho) on the right page. The text is arranged in several vertical columns, starting from the right side and moving towards the center. The ink is dark and the characters are fluid and connected.



